第16回　羽生市
郷土芸能発表会

■日時　令和7年2月9日（日）　午後0時30分開場　午後1時開演

■場所　羽生市産業文化ホール　小ホール

＜公演プログラム＞

下岩瀬白山太鼓保存会

東大和おはやし保存会

下手子林獅子舞保存会

～ 開 演 ～

あいさつ
　主催者
　来賓

一	旭町お囃子保存会	「五人囃子」（にんば・はやし）
二	桑崎獅子舞保存会	「注連（しめ）の舞」
三	下岩瀬白山太鼓保存会	「地太鼓」「キリ太鼓」「岡崎」「彩り」
四	中宿万作保存会	「お判長右衛門」
五	東大和おはやし保存会	「にんば」「はやし」「里神楽踊り」（おかめ・ひょっとこ）
六	下手子林獅子舞保存会	「弓」
七	羽生太鼓　みやび	「秩父屋台囃子」「水口囃子」「八丈太鼓」「ぶちあわせ太鼓」
八	羽生市こども歌舞伎保存会	「白浪五人男」

一. 旭町お囃子保存会（旭町）

旭町のお囃子は、古くから伝わる五人囃子といわれるものです。大正時代から町内に太鼓や笛などの囃子手がいたという記録があり、また、昭和初期に山車も用意され、夏祭り（天王様）で活躍しました。

昭和30年代当時の青年会の活動の一環として、町内の長老に囃子の手ほどきを受け、10名ほどの若い囃子手が生まれました。

現在の保存会組織ができたのは、昭和46年のことでした。昭和50年代には子どもたちへの伝承も始まりました。

最近では、当時の子どもたちも家庭を持ち、その子どもが習いに来ることも少なくありません。

このごろは、10代・20代の若い会員たちが活躍してくれるのもうれしい事のひとつです。練習日を毎月第3日曜日と定め、小学生や中高生、そして大人の会員でにぎやかに練習しています。

二. 桑崎獅子舞保存会（桑崎）

桑崎の獅子舞は、洪水の際に獅子頭が流れ着いたのが起こりであるとの伝承があります。親獅子（父親）、中獅子（子ども）、後獅子（母親）の3頭構成で、めでたい席の最初に踊る注連（しめ）の舞から、花の舞、弓の舞などを踊ります。昔は鐘巻などもありました。

ひととき途絶えていましたが、昭和54年に保存会を結成し、毎年１月１日と十五夜の前後の日曜日に桑崎三神社に奉納しています。約25名の会員で一生懸命活動しています。

保存会の発足を機に、市の無形民俗文化財の指定を受けましたが、いまの悩みは後継者についてです。子ども保存会を作り、毎月第3土曜日の夜7時から練習をしたり、大人の方々にも呼び掛けたりするなど、参加者を増やそうといろいろ努力しています。

お互い仕事を持っていて集まるのも大変ですが、この貴重な芸能が絶えることがないよう、頑張っていきたいと思っております。

三. 下岩瀬白山太鼓保存会（下岩瀬）

下岩瀬一帯は、昔古江の浦と呼ばれ、人々は漁（すなどり）や渡し守、あるいはやせた土地で農耕を細々と営んでいました。世は戦国となり、さらに貧しさや疫病にあえいだ村人等は、加賀一の宮の白山比咩大神を迎えて、笛、鉦、太鼓を激しく打ち鳴らして、五穀豊穣や無病息災を祈願しました。これが白山神社の太鼓の起源です。

その後、神社の祭礼で演奏を奉納しましたが、先人たちがこの世を去り、白山祭も中断してしまいました。そこで昭和55年に保存会が発足し、現在では岩瀬小学校の4～6年生が、クラブ活動として練習を行い地域の伝統を学習し、定期練習とし、市内外小・中・高・大生、総勢20名、創作太鼓は保護者を中心として10名、第1・3の土曜日午後7時より9時まで特訓をしています。地域の各種行事に参加し、幾多の賞や、感謝状を頂いております。

白山創作太鼓は、ドラの音からはじまり、利根川を渡ってくる雷神を表わす激しい大太鼓です。軽快なリズムに激しさが加わり、祭り気分を高めています。

四. 中宿万作保存会（上岩瀬）

中宿の万作は、上岩瀬の中宿に伝承されている万作です。戦争の影響で50年途絶えていたものを、平成元年に復活させました。

万作では、①歌と踊りを見せる「手踊り」、②踊りと芝居が一体となった「段もの」、③即興で面白おかしい掛け合いを楽しむ「茶番狂言」、④より演劇的な性格を強めた「芝居」などが伝えられてきました。

上演中、タイミングを見計らい、見物人から舞台に対してその内容や演技を褒める言葉がかかることがあります。これが「褒詞」です。演者は褒詞がかかると直ちに踊りや芝居を中断し、見物席に向かい平伏します。

そして、一座の代表が「返詞」を返します。褒詞も返詞も、ある言葉にかけて「尽くし文句」が使われます。松尽くしならば松にかけておめでたい言葉を重ねていくというのが尽くし文句です。

演目には「鬼人お松」「お半長右衛門」等があり、踊りには伊勢音頭や豊年万作の唄があります。今回は、「鬼人お松」を演じ、伊勢音頭を踊ります。

五. 東大和おはやし保存会（東大和町）

東大和町の町内に居住または勤務する大人と、小学3年生から中学生までの子どもたちで構成されており、現在大人（8名）と子ども（17名）合わせて25名の会員がいます。

町内の大天白神社春秋例大祭、夏祭り、商工祭、曙ブレーキ納涼祭に参加しました。また、金山町湖水祭にも呼ばれました。練習は月2回行っています。

演目は仁羽囃子（にんばばやし）の演奏や、大人と子どもによる祭囃子の演奏、各お囃子に合わせての里神楽の舞いと続きます。見所はオカメ、ヒョットコ、キツネによる能面神楽の踊りです。

六. 下手子林獅子舞保存会（下手子林）

獅子舞は、主に鎮守である豊武神社と観音堂の合同祭である秋祭りに奉納されております。現在は9月の第2土曜日に実施されています。獅子舞を行う目的は、悪魔払い、厄病よけ、五穀豊穣を願う神事として古くから行われてきており、市指定無形民俗文化財となっています。

獅子舞の前に棒術を行います。棒術は竹田地区霧島眞陰流の皆様です。棒術終了と同時に3頭立ての獅子、王獅子、中獅子、角獅子が舞います。

現在実施されている演目は、平庭、橋、華、武運伝、鐘巻、弓等で、古くは、辻、綱等も実施されました。本日はこのうち一生懸命練習してきた「弓」を演じます。

現在演技している会員が高齢化しており、後継者不足が懸念されていましたが、新たに若手会員が加入してくれて、先に望みを繋いでくれました。また、地元の小学校のふるさとワールドクラブ活動にも参加して、高学年の児童に指導しております。

下手子林獅子舞後援会及び地域の皆様方のご支援ご協力により、これからも郷土芸能である獅子舞を継承するため努力してまいります。

七. 羽生太鼓 みやび（三田ヶ谷）

私たち「羽生太鼓　みやび」は、羽生市三田ヶ谷公民館の和太鼓教室に参加したメンバーが中心になって、平成20年3月に結成されました。会員は小学生から高齢者まで幅広く、20名ほどで、週に二回土曜の夜・日曜の午後、公民館で練習しています。

太鼓の演目はぶちあわせ太鼓や八丈太鼓、水口囃子や秩父屋台囃子など日本の各地に昔から伝わっている伝承太鼓です。演奏活動は羽生市郷土芸能発表会や地域のお祭り、イベント等で、月に1～2回程度演奏させていただいています。

和太鼓が大好きな会員が力を合わせて叩きますので、どうぞよろしくお願いします。

八. 羽生市こども歌舞伎保存会（三田ヶ谷）

戦前から毎年10月15日の八幡神社の秋の大祭日に、田舎芝居（森の石松、国定忠治、一本刀土俵入り等）を奉納しておりました。戦後は一時中断していた時期がありましたが、昭和55年に復活してからは、10月15日前後の日曜日に奉納演芸大会として引き継いでまいりました。この功績が評価され、県のシラコバト賞を受賞しました。

平成2年に大人の芝居とともに、こども歌舞伎が初披露され、以来小学5年生を中心に演じてまいりました。平成20年を最後にいったん中断しましたが、平成27年春に羽生市のキャラクター推進室の後押しがあり、諸先輩の指導のもと7年ぶりに復活し、秋の大祭日に喜右衛門新田の八幡神社に奉納いたしました。現在も　羽生市内の各イベント等に出演し、披露しています。

あ　い　さ　つ

本日はご来場いただきまして、誠にありがとうございます。

我々は日々郷土に根ざした伝統的な芸能を継承、発展させるために精進しております。本公演会には市内の同好の仲間から8団体が出演することとなりました。

羽生市郷土芸能発表会は平成21年よりスタートし、回を重ねてまいりました。 元号が令和に変わり、気持ちを新たに本公演会に臨むはずでしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、延期及び中止を余儀なくされたこともありました。このたび、第16回目を迎えることができましたのも、関係者の皆さまの地道な継続と、並々ならぬ努力の賜物の何ものでもありません。この場をお借りして感謝の意を表します。

本日は、日頃の努力の成果・磨き上げられた「芸」をご堪能ください。また、今後なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

羽生市郷土芸能発表会実行委員会
会長　　清水　親夫
（桑崎獅子舞保存会代表）

主催／羽生市郷土芸能発表会実行委員会

羽　生　市　教　育　委　員　会